

# 検証・7月豪雨と川辺川ダム計画

2006年8月1日

清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会

(文責) 木本雅己 市花保

## 1 雨量と流量から考えられること

球磨川流域は発達した梅雨前線により7月18日から23日にかけて、一昨年台風16号、昨年台風14号に引き続き3年連続の大きな出水に見舞われました。今回の出水状況と現在得られている雨量や水位のデータ(いずれも国交省HPより)から、今回の7月豪雨の検証を行いました。

国土交通省は、「流域で2日間に440ミリの降雨があれば人吉地点で毎秒7000トンの洪水が発生するので川辺川ダムが必要不可欠だ」としています。国土交通省の基本計画と今回の豪雨の雨量と流量とを比較したのが、下の表です。

		国土交通省の基本計画	平成18年7月豪雨(2006年7月18日～23日)
人吉	2日間雨量	440ミリ	424.9ミリ(基本計画の約96.6%)※1
	最大流量	7000トン	3600トン(基本計画の約53%)※2

※1) 人吉観測所上流の16観測地点の2日間雨量(7月20日19時～22日18時)を単純平均した値  
(雨量データは国交省「川の防災情報」HPを参照)

※2) 国交省「川の防災情報」HPの水位データと、平成16年度人吉地点H-Q図より推定した値  
ただし、人吉地点下流300mにおいて平成17年度河床整正が実施されているので推定流量に誤差が生じる可能性がある。

今回の雨量は約96.6%なのに、国土交通省の想定する洪水流量の約53%の流量しか発生しませんでした。過去3年間の3つの洪水は、いずれも雨量に比較して流量が少ないことが明らかになりました。国土交通省の基本高水流量7000トンに科学的根拠はありません。

## 2 各地区ごとの被害状況

### (1) 八代地区

川辺川ダム計画は、流域最大の人口を持つ八代市を洪水の被害から守ることが最大の目的ですが、八代の萩原堤防は250年間決壊したことがありません。今回も被害はなく、堤防にも十分な余裕がありました。

### (2) 人吉地区

	平成16年台風16号	平成17年台風14号	平成18年7月豪雨
最大水位	3.93m	4.16m	3.69m

観測地点 人吉市

人吉市温泉町周辺の地区に3年連続で避難勧告が出されました。しかし、今回の洪水は過去3年の中では一番水位が低いものでした。堤防にも十分な余裕があり、本川による水害の被害はありませんでした。県の

速報値によると、市房ダムによる最大調節量は 147 m<sup>3</sup>/S となっていますが、人吉地点における減水効果は約 7cm にすぎませんでした。

### (3) 球磨村渡地区

	平成 16 年台風 16 号	平成 17 年台風 14 号	平成 18 年 7 月豪雨
最大水位	9.38m	9.97m	10.10m

観測地点 球磨村渡

球磨村の渡地区では過去 3 年の中では一番の水位を観測し、中小河川の氾濫や内水の氾濫により田畑への冠水や家屋への浸水被害が発生しました。常設の排水施設が完備されていれば、家屋などへの浸水被害は低減していたと考えられます。中小河川が球磨川に合流する地点には多くの土砂の堆積がみられるため、早急な土砂の撤去が望まれます。

### (4) 川辺川下流域 (相良村)

	平成 16 年台風 16 号	平成 17 年台風 14 号	平成 18 年 7 月豪雨
最大水位	6.54m	6.97m	5.64m

観測地点 相良村柳瀬

相良村の川辺川周辺では、過去 3 年の中では最低の水位で、川辺川による家屋の浸水や田畑の冠水はほとんど発生しませんでした。

### (5) 中流部 (球磨村・芦北町・旧坂本村)

	平成 16 年台風 16 号	平成 17 年台風 14 号	平成 18 年 7 月豪雨
最大水位	12.64m	13.55m	14.15m

観測地点 球磨村神瀬江河内

中流部の芦北町漆口地区では昨年よりもさらにひどい水害に見舞われました。浸水した家屋の水位痕跡によると、史上最大の流量を記録した昭和 57 年洪水、史上最大の被害をもたらした昭和 40 年水害に次ぐ三番目の浸水被害でした。この地区は改修対象地区であるにもかかわらず、いまだに改修がなされていません。

中流部に多く残る未改修地区は、仮に川辺川ダムを建設したとしても、洪水の被害を免れることは出来ません。

### (6) 五木村

一昨年 8 月の台風 16 号で、五木村築切地区の国道 445 号が数百 m にわたり崩落しました。その復旧工事中に、昨年の台風 14 号で再び同じ現場一帯の国道が崩落し、全面通行止めとなりました。今回もこの同じ地区が 3 年連続で崩落しました。地域の住民に長年にわたり不便を強いる結果となっています。この一帯は地質に問題があることが専門家により指摘されており、より抜本的な対策が必要なのではないでしょうか。

一昨年 8 月の台風 16 号以来、球磨川本流と川辺川は少量の降雨でも長期間の濁った状態が続きます。今回の洪水から 10 日たった現在でも川辺川は濁水の状態です。私たちはこの長期にわたる濁水の原因が上流の本

流に構築された二つの砂防ダムにあると指摘しています。この濁水の長期化により鮎漁は壊滅状態であり、清流球磨川・川辺川を看板とする流域の観光に大きなダメージを与えています。

### 3 まとめ

今回の7月豪雨、一昨年の台風16号、昨年の台風14号は、ともに記録的な洪水でしたが、球磨川流域の被害の実態を調べてみると、川辺川ダム建設により最大の受益地とされている八代地区・人吉地区では、球磨川の破堤や越水による被害は発生していないことが分かりました。国土交通省の川辺川ダム建設に関する費用対効果の説明は破綻していることは明らかです。

また、この3年間の洪水データにより、国交省の基本高水流量の計算と実際の流量に大きな隔たりがあることが明らかになりました。住民も納得のいく基本高水の設定が望まれます。

今回の豪雨では、隣の川内川において想定以上の降雨が発生したために甚大な被害が発生しています。想定以上の洪水に対応できないダム建設に頼るのではなく、より現実的な治水対策を実現していくことで、流域の安全度をさらに高めることが必要であると私たちは考えています。

#### ■連絡先

人吉市九日町93 木本雅己

電話0966-□□-□□□□

携帯□□□-□□□□-□□□□

